

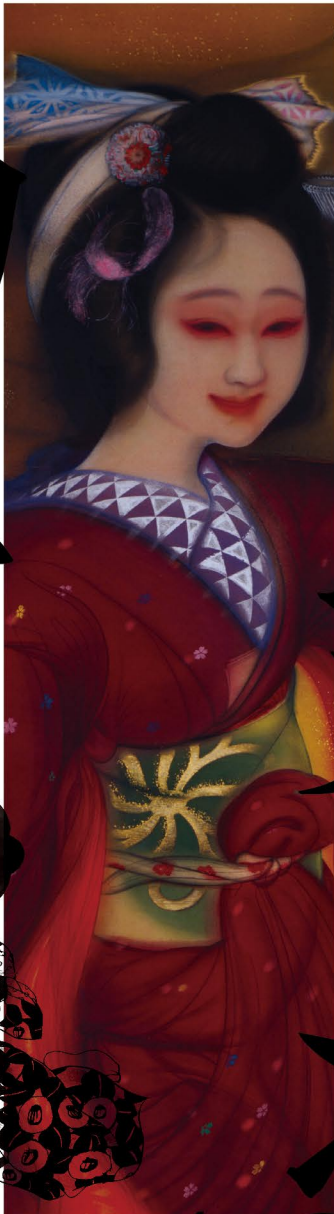
KAINOSHO Tadaoto:
 Crossing Boundaries in
 Nihonga,
 Theater and Film

個性越境する
 映画を
 演劇、
 絵画、

全貌

楠立音の

甲斐女荘



2023 2.11 sat. → 4.9 sun.



京都国立近代美術館

岡崎公園内
 京都市左京区岡崎円勝寺町

巡回情報
 東京ステーションギャラリー
 2023年7月1日(土)〜8月27日(日)

美術館HP: <https://www.monak.go.jp/>
 お問い合わせ 075-761-4111 (美術館代巻)

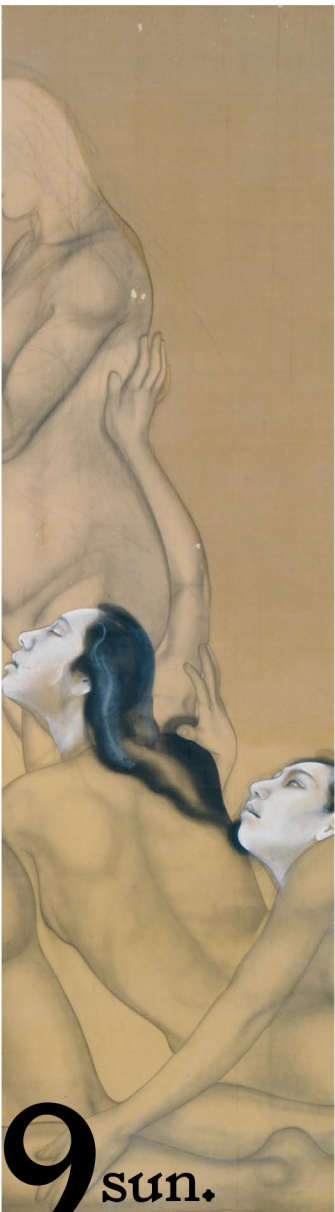
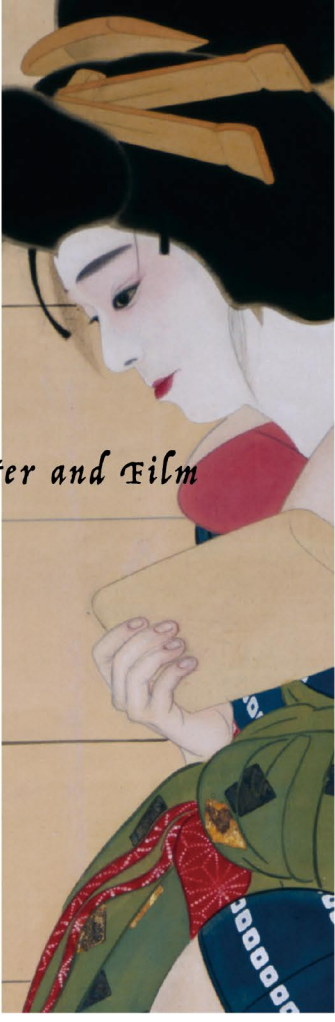
1. 《幻覚(踊らさ)》大正9年頃 (c.1920)
 2. 《秋心》大正6年 (1917)
 3. 太夫に扮した甲斐女荘楠音
 4. 《畜生塚》の前でポーズをとる甲斐女荘楠音
 5. スケッチブックから
- 全て京都国立近代美術館蔵(画像は全て部分)



KAINOSHO Tadaoto:
Crossing Boundaries in Nihonga, Theater and Film



1. 《座る裸婦6》昭和5年頃(c.1930)
 2. 《毛抜》大正4年頃(c.1915)
 3. 25歳頃の甲斐莊楠音
 4. 《遊女》大正4年頃(c.1915)
 5. 《畜生塚》大正4年頃(c.1915)
 6. 女形の役者に扮する甲斐莊楠音
 7. 《横櫛》大正5年頃(c.1916)
 8. 《櫛のお七(下絵)》昭和16年頃(c.1941)
- 今、京都国立近代美術館蔵(画像は全て部分)



甲斐莊楠音の全貌

個性¹
越境する
映画、演劇、
映画を
越境する



京都国立近代美術館

岡崎公園内
京都市左京区岡崎円勝寺町

大正から昭和にかけて京都で活躍した日本画家、甲斐莊(または甲斐庄)楠音(1894~1978)。国画創作協会で彼が発表した作品は美醜を併せ呑んだ人間の生を描いて注目を集めました。やがて映画界へ転身し、風俗考証等で活躍したこともあってその画業が充分には顧みられない時期が続いていました。1997年、当館で開催された「甲斐莊楠音展」は彼の画業について再評価を促したといえますが、その際、映画人としての側面については大きく取り上げることができませんでした。今回は、彼が手がけた時代劇衣裳が太秦で近年再発見されたことを受け、映画人・演劇人としての側面を含めた彼の全体像をご覧いただきます。

2023 2.11 sat. → 4.9 sun.